



子育て伴走「だいじょうぶ！」通信 No. 14

～みんな大切 笑顔あふれる家庭とこども園に～



R6.3.4 やすぎこども園 園長 福島朗博

◆園風景から ～なかよしタイム（異年齢児交流保育）の子どもたちのふれあい～

乳幼児期は、相手の表情を見て感じながら感受性を発達させ、相手の気持ちを理解できるようになります。またお互いにふれあうことで、感覚器官を発達させ、愛情や信頼、喜びや楽しさを感じるようになります。新型コロナウイルス感染症は、私たちの生活を大きく変えてしまいました。特に今の年中年長児は、そのような人間形成として大事な乳幼児期をコロナ禍とマスク生活で過ごしてきたことで、感受性などの育ちへの影響は大きかったでしょう。

ようやくアフタコロナとなった今年度は、こども園でも行事内容や保護者の参加の仕方だけでなく、戻ってきた日常の保育活動があります。そら組（4・5歳合同クラス）では、包丁やピーラーなどを使用する調理体験を毎月のように行うことができました。1月にはJA ややすぎさんの協力もいただいて、年長児親子クッキング・カレーづくり体験もできましたね。

もう一つが、異年齢児交流保育「なかよしタイム」です。クラスで子どもの様子を見て担任間で相談しながら、朝や夕方の適時にどちらかの部屋に少人数で出かけて入るなどして、行っています。以下は、担任たちが立てた、交流のねらいです。『①異年齢交流を通して社会性・協調性を育む。②保育者に褒めてもらい認めてもらうことで自己肯定感を育む』。具体的には、『年下の子とかかわる中で、いつもなら強く主張したり我慢したりすることが難しい場面でも相手を思いやり気遣おうとする（いたわりの気持ち）』『言葉の理解が難しい年下の子に対し、年上の子は考えを巡らせながら相手に気持ちを伝えようとする（コミュニケーション）』。そのねらいについて見事に表現してくれている写真（下）があります。近くの公園やひかり組部屋で、そら組のお兄さんお姉さんと赤ちゃんが交わっている情景です。年上の子もたちの赤ちゃんに寄り添い優しくかかわる様子が自然で、とても癒されますね。



赤ちゃんの目の高さまで降りて、同じ心の高さになる
赤ちゃんとも心を交わせる本当の優しさが芽生えてくる

最初は、赤ちゃんにふれるのがこわくて、「ぼくは、なかよしタイムに行かない。」と言っていたけれども、回を重ねることでかかわれるようになった年長児さんもいました。こわごわふれながらも、先生に褒められて自信をつけていったようです。



白石正久さんは著書「発達の扉（上）」（かもがわ出版）で、『あかちゃんの目の高さ』と称して、次のように記しています。『5～6歳になると、赤ちゃんに一方向的に話しかけたり、無遠慮に体に触ったりしません。相手が不安がらないように一定の距離を置き、それから語りかけるのです。そして、自分たちが話しかけたことに対して、赤ちゃんがどんな反応を返してくれるのか、その表情をしっかりと読み取ろうとしています。…しかも、高い視線からではなく、赤ちゃんの視線に自分たちが降りていこうとします。』赤ちゃんにも心のはたらかがあることを知り、その心のなかに入ろうとする、また相手を大切にできることに喜びを感じるようになる、年長児さんの優しさは、このこども園だからこそ結ぶことができる関係と心の育ちと思います。

なお、今回のなかよしタイムは、そら組さんとひかり組の赤ちゃんのふれあいを中心に取り上げましたが、他のクラス間でも積極的に同様の交流を行っています。またこの時期は、春に進級するクラスの部屋に出かけ、そこでお友だちと過ごしたりして、あこがれやわくわくの気持ちを育てています。これまでの日常の暮らしを取り戻していくなかで、そうしたあたり前のよさと、こども園のよさを見つめなおして、これからも大事に継承していきたいと思っています。

最後に、アフタコロナにおける園の取組を紹介しましたが、子育ての大切な時間は、コロナであろうとなかろうと関係なく、後から取り戻すことはできません。皆さまには、まさに今、進行中である子育てに慈しみ、お子さんとのかかわりを心底大切にしていきたいと念じています。

幼児期に親子で創られる豊かな思い出は
思春期を迎える子どもの心の芯になっていきます （南村洋子）



○職員ワークショップ ～やすぎこども園これからのわくわくを考えよう！話し合おう！～

保育参観に来ていただいた2月17日（土）の午後は、「次年度のわくわくを考えよう！話し合おう！」をテーマに、職員全員で来年度に向けたワークショップを行いました。具体的には、こども園の行事について、アフタコロナを機にねらいなどから見直して、来年度以降の計画のもとになるものをつくろうと、グループに分かれて活発に話し合いました。その結果、やんちゃっこまつりや運動会については同じ日にして全園児の参加に、わくわく発表会も今年度の3回から2回にして他クラスの発表も見れるようにといった方向づけでまとまりそうです。これから内容なども詰めていきますが、子どもが主体となり、日常の教育・保育活動の延長としてつながるものになるといいなと考えています。



「コロナ前の発表会のように、我が子のクラスだけでなく、他のクラスの子どもの様子や発表も見てみたいですね。」とは、1月の保護者会役員会の場で、温かいまなざしで語られた保護者さんの言葉です。現代は、自分らしく、その子らしくその人らしく、と多様性を認めあう時代です。来年度は、行事などを通して「やすぎこども園の子どもみんなを、大人みんなで見守る」温かいスタートの年にしていきたいですね。

園長の

ことば&子育て相談日 来年度も月1回土曜日に行います
ご希望の方は平日でも受けつけます

園長だよりバックナンバーはこちらです⇒

